

国連人権理事会 59 会期：女性の人権に関する年次終日会議におけるナダ・アル＝ナシフ  
国連人権副高等弁務官の挨拶

2025/06/24

国連人権高等弁務官事務所

「軍事力は抑止力になりうる。しかし、それが紛争を未然に防いだり、国益にかなう迅速な成果を得たりすることはできず、意図しない結果を招いた例は数え切れないほどある。そのため、私たちは、これまで以上に外交の力に再び投資をする必要がある。外交は各国の外交・貿易政策の主要な手段であり、戦争と平和の違いを明確にする。そして明らかに、誰が代表を務めるかが重要である。現在、女性の外務大臣は世界に 30 人しかいない。世界的に見ても、女性大使は全体のわずか 20 % である。女性の外交的リーダーシップが有益であることは、UN ウィメンの調査により明らかだが、戦争に関わる決定や和平交渉では、依然として男性支配が常態である。女性人権擁護家や女性主導の組織は、長年にわたり最低限の資金で平和構築の担い手として活動してきたが、深刻な資金削減に直面し、活動が困難になっている。また、女性や女兒、多様なジェンダーの人びとの平等と人権に対して、露骨な反発があちこちで起きている。こうした状況を早急に変えなければならない。本日、「女性と外交の国際デー」にあたり、私はすべての加盟国に対し、女性の有意義な参加を促進し、平和と安全保障に関する意思決定や公的生活のあらゆる側面における平等を確保するために必要な、あらゆる措置を早急に講じるよう求める」。

【記事全文】

[Deputy High Commissioner addresses Human Rights Council on overcoming barriers to women's leadership in peace processes](#)